



2022年12月期 第3四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

2022年10月25日

上場会社名 山崎製パン株式会社
 コード番号 2212 URL <http://www.yamazakipan.co.jp/>
 代表者 (役職名) 代表取締役社長
 問合せ先責任者 (役職名) 専務取締役
 四半期報告書提出予定日 2022年11月10日
 配当支払開始予定日 —
 四半期決算補足説明資料作成の有無 : 無
 四半期決算説明会開催の有無 : 無

(氏名) 飯島 延浩
 (氏名) 会田 正久

上場取引所 東
 TEL 03-3864-3110

(百万円未満切捨て)

1. 2022年12月期第3四半期の連結業績(2022年1月1日～2022年9月30日)

(1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

| | 売上高 | | 営業利益 | | 経常利益 | | 親会社株主に帰属する 四半期純利益 | |
|----------------|---------|-----|--------|------|--------|------|----------------------|------|
| | 百万円 | % | 百万円 | % | 百万円 | % | 百万円 | % |
| 2022年12月期第3四半期 | 792,128 | — | 16,025 | 17.0 | 19,854 | 26.1 | 9,946 | 27.3 |
| 2021年12月期第3四半期 | 762,055 | 1.7 | 13,697 | 25.3 | 15,744 | 28.5 | 7,810 | 81.6 |

(注) 包括利益 2022年12月期第3四半期 15,829百万円 (△2.1%) 2021年12月期第3四半期 16,177百万円 (446.0%)

| | 1株当たり四半期純利益 | 潜在株式調整後 1株当たり四半期純利益 |
|----------------|-------------|------------------------|
| | 円 銭 | 円 銭 |
| 2022年12月期第3四半期 | 47.48 | — |
| 2021年12月期第3四半期 | 36.54 | — |

(注) 「収益認識に関する会計基準」(企業会計基準第29号 2020年3月31日)等を第1四半期連結会計期間の期首から適用しております。
 このため、当該基準を適用する前の2021年12月期第3四半期連結累計期間の売上高に対する対前年同四半期増減率は記載しておりません。
 なお、2021年12月期第3四半期累計期間と同様の基準で算出した2022年12月期第3四半期連結累計期間の売上高の増減率は7.9%増であります。

(2) 連結財政状態

| | 総資産 | 純資産 | 自己資本比率 |
|----------------|---------|---------|--------|
| | 百万円 | 百万円 | % |
| 2022年12月期第3四半期 | 740,052 | 387,122 | 46.4 |
| 2021年12月期 | 757,352 | 382,217 | 45.2 |

(参考) 自己資本 2022年12月期第3四半期 343,713百万円 2021年12月期 342,574百万円

2. 配当の状況

| | 年間配当金 | | | | |
|---------------|--------|--------|--------|-------|-------|
| | 第1四半期末 | 第2四半期末 | 第3四半期末 | 期末 | 合計 |
| | 円 銭 | 円 銭 | 円 銭 | 円 銭 | 円 銭 |
| 2021年12月期 | — | — | — | 22.00 | 22.00 |
| 2022年12月期 | — | — | — | — | — |
| 2022年12月期(予想) | — | — | — | 22.00 | 22.00 |

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 2022年12月期の連結業績予想(2022年1月1日～2022年12月31日)

(%表示は、対前期増減率)

| | 売上高 | | 営業利益 | | 経常利益 | | 親会社株主に帰属する 当期純利益 | | 1株当たり 当期純利益 |
|----|-----------|---|--------|------|--------|------|---------------------|------|----------------|
| | 百万円 | % | 百万円 | % | 百万円 | % | 百万円 | % | 円 銭 |
| 通期 | 1,056,000 | — | 24,000 | 30.7 | 26,000 | 21.6 | 12,000 | 15.6 | 57.29 |

(注1) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

(注2) 「収益認識に関する会計基準」(企業会計基準第29号 2020年3月31日)等を第1四半期連結会計期間の期首から適用しており、
 上記の連結業績予想の売上高は当該会計基準等を適用した業績予想となります。
 このため、当該基準適用前の2021年12月期の売上高に対する増減率は記載しておりません。
 なお、2021年12月期と同様の基準で算出した2022年12月期の売上高の増減率は以下の通りとなっております。
 通期 対前期増減率 3.8%

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動) : 無

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 有
- ② ①以外の会計方針の変更 : 無
- ③ 会計上の見積りの変更 : 無
- ④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数(普通株式)

| | | | | |
|---------------------|-------------|---------------|-------------|---------------|
| ① 期末発行済株式数(自己株式を含む) | 2022年12月期3Q | 220,282,860 株 | 2021年12月期 | 220,282,860 株 |
| ② 期末自己株式数 | 2022年12月期3Q | 11,647,690 株 | 2021年12月期 | 7,447,421 株 |
| ③ 期中平均株式数(四半期累計) | 2022年12月期3Q | 209,475,275 株 | 2021年12月期3Q | 213,746,849 株 |

※ 四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、添付資料4ページ「(3)連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○ 添付資料の目次

| | |
|------------------------------|----|
| 1. 当四半期決算に関する定性的情報 | 2 |
| (1) 経営成績に関する説明 | 2 |
| (2) 財政状態に関する説明 | 3 |
| (3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明 | 4 |
| 2. 四半期連結財務諸表及び主な注記 | 5 |
| (1) 四半期連結貸借対照表 | 5 |
| (2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書 | 7 |
| 四半期連結損益計算書 | 7 |
| 四半期連結包括利益計算書 | 8 |
| (3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項 | 9 |
| (継続企業の前提に関する注記) | 9 |
| (株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記) | 9 |
| (会計方針の変更) | 9 |
| (四半期連結損益計算書関係) | 9 |
| (セグメント情報等) | 10 |
| 3. 補足情報 | 11 |

1. 当四半期決算に関する定性的情報

第1四半期連結会計期間の期首より、「収益認識に関する会計基準」(企業会計基準第29号2020年3月31日)等を適用しております。そのため、「(1)経営成績に関する説明」における売上高については当該会計基準適用後の数値を記載しております。なお、売上高の対前年同期比と前年同期との比較コメントについては、前年同期と同基準の収益認識会計基準適用前の数値との比較で記載しております。

(1)経営成績に関する説明

当第3四半期連結累計期間(2022年1月1日～2022年9月30日)におけるわが国経済は、新型コロナウイルスによる行動制限が緩和され、景気は持ち直しの動きがみられましたものの、原材料価格の上昇や急速な円安進行もあり、力強さを欠くものとなりました。

当業界におきましては、物価上昇によりお客様の節約志向が強まり消費が伸び悩む中で、主原料の小麦粉や油脂、包材などの原材料価格の高騰に加え、都市ガス、電気などのエネルギーコストの上昇もあり厳しい経営環境となりました。また、コンビニエンスストアやフレッシュベーカリーの小売事業につきましては、3月下旬以降、まん延防止等重点措置の終了を受けて人流が回復傾向となり、おにぎりやサンドイッチ、焼き立てパンなどの需要も回復してまいりました。

このような情勢下にあります、当社グループは、緊急事態においてパン、和菓子、洋菓子類を緊急食糧として社会に提供するという新しいヤマザキの精神に従い、新型コロナウイルス感染拡大の中で製品の安定供給を確保するため、全従業員に対して検温を実施し、37.2℃以上の発熱がある者は自宅待機とし、また発熱がない場合でも新型コロナウイルス独特の自覚症状がある者も自宅待機とし、この自宅待機者数とPCR検査陽性者数を日々管理しました。また、マスクの着用や手指の消毒など日常の感染防止対策を徹底するとともに、5人以上の会食の原則禁止や感染の恐れの高い遊興施設の利用禁止など、公衆衛生上の遵守事項を徹底しました。さらに、工場・事業所内の感染防止対策として、炭酸ガス濃度測定器によって、常時職場内の換気をしながら炭酸ガス濃度を700ppm以下に保つとともに、従業員向けに新型コロナワクチンの職域接種を推進し、社会的使命の達成に全力を挙げて取り組んでまいりました。

このような状況の中で、当社グループは、新型コロナウイルス感染防止対策の上に行う業績向上対策として、「いのちの道」の教えに従う、営業・生産が一体となった部門別製品施策・営業戦略、小委員会による「なぜなぜ改善」を推進し、ルヴァン種等を活用して品質の向上をはかるとともに、変化するお客様のニーズに対応した新製品開発に取り組むなど、各部門毎の業績向上をめざしました。

また、主原料の小麦粉価格の度重なる上昇に対処するため、本年1月1日並びに7月1日出荷分から、パン類の価格改定を実施するとともに、2極化・3極化戦略によって低価格帯製品や値頃感のある製品を強化するなど価格帯毎に隙のない製品対応を推進し、業績の確保につとめました。また、同様の戦略を和菓子、洋菓子にも展開し業績の回復に取り組みました。

デイリーヤマザキやヴィ・ド・フランスなど小売事業につきましては、小売事業業績改善プロジェクトにより日次管理・週次管理の経営手法を徹底し日々の仕事の精度向上につとめるとともに、小売事業本部内の戦略製品・戦略商品開発推進チームと連携し、ヤマザキの技術を最大限活用した、競争力のある商品開発を推進するなど業績回復をめざしました。

当第3四半期連結累計期間の業績につきましては、売上高は7,921億28百万円(対前年同期比107.9%)、営業利益は160億25百万円(対前年同期比117.0%)、経常利益は198億54百万円(対前年同期比126.1%)、親会社株主に帰属する四半期純利益は99億46百万円(対前年同期比127.3%)となり、山崎製パン(株)単体の食パンや菓子パンが好調に推移したことに加え、一部の連結子会社の業績が改善したこともあり、増収増益となりました。

セグメント別の状況

<食品事業>

食品事業の主要製品別の売上状況は次のとおりであります。

①食パン部門(売上高761億2百万円、対前年同期比108.2%)

食パンは、主力の「ロイヤルブレッド」が伸長し、「モーニングスター」や「スイートブレッド」などの低価格帯食パンが大きく伸長するとともに、サンドイッチ用食パンの回復や価格改定の寄与もあり、前年同期の売上を上回りました。

②菓子パン部門（売上高2,791億72百万円、対前年同期比108.3%）

菓子パンは、主力の高級シリーズや「まるごとソーセージ」が好調に推移するとともに、値頃感のあるヤマザキ菓子パンシリーズが大きく伸長し、「ルヴァンバターロール」などの食卓ロールや「ベイクワン」シリーズなどの複数個入り製品が伸長しました。さらに、前第4四半期から海外子会社を新規連結したことによる売上寄与もあり、前年同期の売上を上回りました。

③和菓子部門（売上高514億12百万円、対前年同期比104.4%）

和菓子は、主力の串団子やまんじゅうが好調に推移し、複数個入りの大福や蒸しパンが伸長するとともに、チルド製品の「クリームたっぷり生どら焼」が売上に寄与するなど、前年同期の売上を上回りました。

④洋菓子部門（売上高1,026億62百万円、対前年同期比101.3%）

洋菓子は、値頃感のある製品を充実させた主力の「2個入り生ケーキ」が当第3四半期に入り回復するとともに、(株)不二家の洋菓子事業が好調に推移したことに加え、前第4四半期から海外子会社を新規連結したことによる売上寄与もあり、前年同期の売上を上回りました。

⑤調理パン・米飯類部門（売上高1,096億96百万円、対前年同期比107.7%）

調理パン・米飯類は、おにぎりやサンドイッチの売上回復に加え、(株)サンデリカにおけるコンビニエンスストアチェーンとの取引拡大や大徳食品(株)における調理麺の売上増もあり、前年同期の売上を上回りました。

⑥製菓・米菓・その他商品類部門（売上高1,178億69百万円、対前年同期比112.8%）

製菓・米菓・その他商品類は、(株)不二家の「カントリーマアム チョコマみれ」が大きく伸長するとともに、(株)東ハトの「ポテコ」や「あみじゃが」が伸長するなど、前年同期の売上を上回りました。

以上の結果、食品事業の売上高は7,369億16百万円（対前年同期比107.7%）、営業利益は162億7百万円（対前年同期比109.1%）となりました。

<流通事業>

デイリーヤマザキのコンビニエンスストア事業につきましては、戦略製品・戦略商品開発推進チームと連携して「ランチパック 大盛り」シリーズやヤマザキベストセクションなど当社グループ商品の開発に取り組む一方で、値頃感のある商品の品揃えについても強化をはかりました。また、既存店舗の改装を行い、個店の強化を進めるとともに、松戸ドミナントプロジェクトを通じてデイリーホットの収益改善に取り組みました。当第3四半期は、チェーン全店売上高は前年同期を上回るとともに、営業総収入は直営店舗数の増加により増収となりました。

以上の結果、流通事業は、前第4四半期から(株)スーパーヤマザキを新規連結したこともあり、売上高は455億91百万円（対前年同期比112.4%）、営業損失は23億22百万円（前年同期は31億38百万円の営業損失）となりました。

<その他事業>

その他事業につきましては、売上高は96億20百万円（対前年同期比103.7%）、営業利益は17億74百万円（対前年同期比105.4%）となりました。

(2) 財政状態に関する説明

当第3四半期連結会計期間末の資産合計は7,400億52百万円で、前連結会計年度末に対して173億円減少しました。流動資産は2,749億10百万円で、受取手形及び売掛金の減少等により、前連結会計年度末に対して150億74百万円減少しました。固定資産は4,651億42百万円で、投資有価証券の減少等により、前連結会計年度末に対して22億25百万円減少しました。負債合計は3,529億29百万円で、支払手形及び買掛金等の支払債務の減少や借入金の返済により、前連結会計年度末に対して222億5百万円減少しました。純資産は3,871億22百万円で、自己株式の取得による減少がありました。利益剰余金の増加等により、前連結会計年度末に対して49億4百万円増加しました。

この結果、自己資本比率は46.4%となりました。

(3)連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

今後の見通しといたしましては、わが国経済は、政府による新型コロナウイルス対策が進められる中で景気は持ち直していくことが期待されますが、円安進行による原材料価格の上昇が懸念され、先行きは予断を許しません。

当業界におきましては、お客様の生活防衛意識の高まりから節約志向が更に強まる中で、主原料の小麦粉につきましては本年10月期の輸入小麦の政府売渡価格は据え置きとなりましたものの、小麦粉以外の油脂や糖類、包材など原材料価格やエネルギーコストの更なる上昇が見込まれており、依然として厳しい経営環境になるものと思われまます。

このような状況下にあります、当社グループは、引き続き新型コロナウイルスの感染防止対策を徹底するとともに、「いのちの道」の教えに従った、営業・生産が一体となった部門別製品施策・営業戦略、小委員会による「なぜなぜ改善」によって、各部門毎に、ヤマザキ独自の技術を活用した品質向上や新製品開発に取り組み、変化するお客様のニーズに対応した2極化・3極化戦略によって価格帯毎に隙のない製品対応をはかり、新しい価値と新しい需要の創造をめざしてまいります。なお、2022年2月15日付にて公表した通期の業績予想に変更はありません。

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

| | 前連結会計年度 (2021年12月31日) | 当第3四半期連結会計期間 (2022年9月30日) |
|----------------|--------------------------|------------------------------|
| 資産の部 | | |
| 流動資産 | | |
| 現金及び預金 | 138,143 | 144,082 |
| 受取手形及び売掛金 | 114,588 | 90,729 |
| 商品及び製品 | 12,034 | 13,848 |
| 仕掛品 | 718 | 1,232 |
| 原材料及び貯蔵品 | 11,793 | 12,020 |
| その他 | 13,093 | 13,339 |
| 貸倒引当金 | △387 | △343 |
| 流動資産合計 | 289,984 | 274,910 |
| 固定資産 | | |
| 有形固定資産 | | |
| 建物及び構築物 | 406,315 | 412,398 |
| 減価償却累計額 | △297,389 | △303,206 |
| 建物及び構築物 (純額) | 108,925 | 109,192 |
| 機械装置及び運搬具 | 540,592 | 550,016 |
| 減価償却累計額 | △453,690 | △467,664 |
| 機械装置及び運搬具 (純額) | 86,902 | 82,351 |
| 工具、器具及び備品 | 39,220 | 40,663 |
| 減価償却累計額 | △31,588 | △32,941 |
| 工具、器具及び備品 (純額) | 7,631 | 7,722 |
| 土地 | 113,331 | 114,194 |
| リース資産 | 17,436 | 19,135 |
| 減価償却累計額 | △10,656 | △12,473 |
| リース資産 (純額) | 6,779 | 6,662 |
| 建設仮勘定 | 4,957 | 8,551 |
| 有形固定資産合計 | 328,527 | 328,673 |
| 無形固定資産 | | |
| のれん | 10,764 | 10,601 |
| その他 | 11,494 | 12,660 |
| 無形固定資産合計 | 22,258 | 23,261 |
| 投資その他の資産 | | |
| 投資有価証券 | 65,219 | 61,552 |
| 長期貸付金 | 877 | 848 |
| 退職給付に係る資産 | 457 | 550 |
| 繰延税金資産 | 22,309 | 22,687 |
| その他 | 30,243 | 29,878 |
| 貸倒引当金 | △2,525 | △2,312 |
| 投資その他の資産合計 | 116,581 | 113,206 |
| 固定資産合計 | 467,367 | 465,142 |
| 資産合計 | 757,352 | 740,052 |

(単位：百万円)

| | 前連結会計年度 (2021年12月31日) | 当第3四半期連結会計期間 (2022年9月30日) |
|---------------|--------------------------|------------------------------|
| 負債の部 | | |
| 流動負債 | | |
| 支払手形及び買掛金 | 76,414 | 74,760 |
| 短期借入金 | 60,913 | 57,262 |
| リース債務 | 2,942 | 3,035 |
| 未払法人税等 | 5,793 | 3,626 |
| 未払費用 | 41,634 | 32,870 |
| 賞与引当金 | 4,952 | 13,138 |
| 販売促進引当金 | 1,238 | — |
| 店舗閉鎖損失引当金 | 37 | 46 |
| 資産除去債務 | 16 | 18 |
| その他 | 41,342 | 35,564 |
| 流動負債合計 | 235,286 | 220,324 |
| 固定負債 | | |
| 長期借入金 | 29,172 | 23,223 |
| リース債務 | 4,831 | 4,282 |
| 役員退職慰労引当金 | 4,212 | 4,735 |
| 債務保証損失引当金 | 33 | 33 |
| 環境対策引当金 | — | 0 |
| 退職給付に係る負債 | 89,943 | 88,188 |
| 資産除去債務 | 5,043 | 4,991 |
| その他 | 6,611 | 7,149 |
| 固定負債合計 | 139,848 | 132,605 |
| 負債合計 | 375,135 | 352,929 |
| 純資産の部 | | |
| 株主資本 | | |
| 資本金 | 11,014 | 11,014 |
| 資本剰余金 | 9,633 | 9,632 |
| 利益剰余金 | 310,080 | 315,394 |
| 自己株式 | △14,817 | △21,890 |
| 株主資本合計 | 315,910 | 314,150 |
| その他の包括利益累計額 | | |
| その他有価証券評価差額金 | 26,780 | 24,813 |
| 繰延ヘッジ損益 | 0 | 4 |
| 土地再評価差額金 | 99 | 99 |
| 為替換算調整勘定 | 987 | 4,244 |
| 退職給付に係る調整累計額 | △1,204 | 401 |
| その他の包括利益累計額合計 | 26,663 | 29,562 |
| 非支配株主持分 | 39,643 | 43,409 |
| 純資産合計 | 382,217 | 387,122 |
| 負債純資産合計 | 757,352 | 740,052 |

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

四半期連結損益計算書

第3四半期連結累計期間

(単位：百万円)

| | 前第3四半期連結累計期間 (自2021年1月1日 至2021年9月30日) | 当第3四半期連結累計期間 (自2022年1月1日 至2022年9月30日) |
|------------------|---|---|
| 売上高 | 762,055 | 792,128 |
| 売上原価 | 496,661 | 537,628 |
| 売上総利益 | 265,394 | 254,499 |
| 販売費及び一般管理費 | 251,697 | 238,473 |
| 営業利益 | 13,697 | 16,025 |
| 営業外収益 | | |
| 受取利息 | 95 | 96 |
| 受取配当金 | 718 | 748 |
| 為替差益 | 385 | 1,535 |
| 固定資産賃貸収入 | 677 | 746 |
| 持分法による投資利益 | 481 | 574 |
| 雑収入 | 822 | 1,197 |
| 営業外収益合計 | 3,181 | 4,899 |
| 営業外費用 | | |
| 支払利息 | 531 | 559 |
| 固定資産賃貸費用 | 223 | 245 |
| 雑損失 | 379 | 264 |
| 営業外費用合計 | 1,134 | 1,070 |
| 経常利益 | 15,744 | 19,854 |
| 特別利益 | | |
| 固定資産売却益 | 70 | 82 |
| 助成金収入 | ※1 1,221 | ※1 456 |
| 投資有価証券売却益 | - | 15 |
| 特別利益合計 | 1,292 | 554 |
| 特別損失 | | |
| 固定資産除売却損 | 904 | 994 |
| 減損損失 | 724 | 628 |
| 投資有価証券評価損 | 30 | 305 |
| その他 | 222 | 276 |
| 特別損失合計 | 1,882 | 2,204 |
| 税金等調整前四半期純利益 | 15,154 | 18,204 |
| 法人税等 | 6,181 | 6,839 |
| 四半期純利益 | 8,972 | 11,365 |
| 非支配株主に帰属する四半期純利益 | 1,162 | 1,418 |
| 親会社株主に帰属する四半期純利益 | 7,810 | 9,946 |

四半期連結包括利益計算書

第3四半期連結累計期間

(単位：百万円)

| | 前第3四半期連結累計期間 (自 2021年1月1日 至 2021年9月30日) | 当第3四半期連結累計期間 (自 2022年1月1日 至 2022年9月30日) |
|------------------|---|---|
| 四半期純利益 | 8,972 | 11,365 |
| その他の包括利益 | | |
| その他有価証券評価差額金 | 4,294 | △1,950 |
| 為替換算調整勘定 | 720 | 4,836 |
| 退職給付に係る調整額 | 2,164 | 1,581 |
| 持分法適用会社に対する持分相当額 | 24 | △3 |
| その他の包括利益合計 | 7,204 | 4,463 |
| 四半期包括利益 | 16,177 | 15,829 |
| (内訳) | | |
| 親会社株主に係る四半期包括利益 | 14,620 | 12,846 |
| 非支配株主に係る四半期包括利益 | 1,556 | 2,983 |

(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

当社は、2022年2月15日開催の取締役会決議に基づき、自己株式4,200,000株の取得を行っております。この結果等により、当第3四半期連結累計期間において、自己株式が7,073百万円増加し、当第3四半期連結会計期間末において自己株式が21,890百万円となっております。

(会計方針の変更)

(収益認識に関する会計基準等の適用)

「収益認識に関する会計基準」(企業会計基準第29号 2020年3月31日。以下「収益認識会計基準」という。)等を第1四半期連結会計期間の期首から適用し、約束した財又はサービスの支配が顧客に移転した時点で、当該財又はサービスと交換に受け取ると見込まれる金額で収益を認識することとしております。

これにより、従来、販売費及び一般管理費に計上しておりました売上リベート等の変動対価及びセンターフイー等の顧客に支払われる対価について、売上高から控除して表示する方法に変更しております。

収益認識会計基準等の適用については、収益認識会計基準第84項ただし書きに定める経過的な取扱いに従っており、第1四半期連結会計期間の期首より前に新たな会計方針を遡及適用した場合の累積的影響額を、第1四半期連結会計期間の期首の利益剰余金に加減し、当該期首残高から新たな会計方針を適用しております。ただし、収益認識会計基準第86項に定める方法を適用し、第1四半期連結会計期間の期首より前までに従前の取扱いに従ってほとんどすべての収益の額を認識した契約に、新たな会計方針を遡及適用しておりません。

この結果、当第3四半期連結累計期間の売上高は30,078百万円、売上原価は2,381百万円、販売費及び一般管理費が27,697百万円それぞれ減少しており、営業利益に与える影響はありません。また、経常利益、税金等調整前四半期純利益及び利益剰余金期首残高に与える影響は軽微であります。

収益認識会計基準等を適用したため、前連結会計年度の連結貸借対照表において、主に「流動負債」の「未払費用」に表示していた売上リベート等の一部につきましては、第1四半期連結会計期間より「流動負債」の「その他」に含めて表示することとしました。なお、収益認識会計基準第89-2項に定める経過的な取扱いに従って、前連結会計年度について新たな表示方法により組替えを行っておりません。さらに、「四半期財務諸表に関する会計基準」(企業会計基準第12号 2020年3月31日)第28-15項に定める経過的な取扱いに従って、前第3四半期連結累計期間に係る顧客との契約から生じる収益を分解した情報を記載しておりません。

(時価の算定に関する会計基準等の適用)

「時価の算定に関する会計基準」(企業会計基準第30号 2019年7月4日。以下「時価算定会計基準」という。)等を第1四半期連結会計期間の期首から適用し、時価算定会計基準第19項及び「金融商品に関する会計基準」(企業会計基準第10号 2019年7月4日)第44-2項に定める経過的な取扱いに従って、時価算定会計基準等が定める新たな会計方針を、将来にわたって適用することとしております。なお、四半期連結財務諸表に与える影響はありません。

(四半期連結損益計算書関係)

※1 助成金収入

新型コロナウイルス感染症に伴う政府によるまん延防止等重点措置等や各自治体からの営業時間短縮要請に応じたフレッシュバーカーイー等、海外を含む小売事業において営業時間の短縮等を実施いたしました。

当該営業時間短縮等による協力金等は、「助成金収入」として特別利益に計上しております。

(セグメント情報等)

I 前第3四半期連結累計期間(自2021年1月1日至2021年9月30日)
報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

| | 報告セグメント | | | | 調整額 (注)1 | 四半期連結 損益計算書 計上額(注)2 |
|-----------------------|---------|--------|-----------|---------|-------------|---------------------------|
| | 食品事業 | 流通事業 | その他 事業 | 計 | | |
| 売上高 | | | | | | |
| 外部顧客への売上高 | 712,714 | 39,883 | 9,457 | 762,055 | — | 762,055 |
| セグメント間の内部売上高 又は振替高 | 6,834 | 5,018 | 28,361 | 40,213 | △40,213 | — |
| 計 | 719,548 | 44,901 | 37,819 | 802,269 | △40,213 | 762,055 |
| セグメント利益又は損失(△) | 14,856 | △3,138 | 1,683 | 13,401 | 296 | 13,697 |

(注)1 セグメント利益又は損失の調整額296百万円は、セグメント間取引の消去であります。

2 セグメント利益又は損失は四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

II 当第3四半期連結累計期間(自2022年1月1日至2022年9月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報並びに収益の分解情報

(単位:百万円)

| | 報告セグメント | | | | 調整額 (注)1 | 四半期連結 損益計算書 計上額(注)2 |
|-----------------------|---------|--------|-----------|---------|-------------|---------------------------|
| | 食品事業 | 流通事業 | その他 事業 | 計 | | |
| 売上高 | | | | | | |
| 食パン | 76,102 | — | — | 76,102 | — | 76,102 |
| 菓子パン | 279,172 | — | — | 279,172 | — | 279,172 |
| 和菓子 | 51,412 | — | — | 51,412 | — | 51,412 |
| 洋菓子 | 102,662 | — | — | 102,662 | — | 102,662 |
| 調理パン・米飯類 | 109,696 | — | — | 109,696 | — | 109,696 |
| 製菓・米菓・その他商品類 | 117,869 | — | — | 117,869 | — | 117,869 |
| その他 | — | 45,591 | 9,487 | 55,078 | — | 55,078 |
| 顧客との契約から生じる収益 | 736,916 | 45,591 | 9,487 | 791,995 | — | 791,995 |
| その他の収益 | — | — | 133 | 133 | — | 133 |
| 外部顧客への売上高 | 736,916 | 45,591 | 9,620 | 792,128 | — | 792,128 |
| セグメント間の内部売上高 又は振替高 | 6,911 | 7,628 | 27,983 | 42,522 | △42,522 | — |
| 計 | 743,827 | 53,219 | 37,603 | 834,651 | △42,522 | 792,128 |
| セグメント利益又は損失(△) | 16,207 | △2,322 | 1,774 | 15,659 | 366 | 16,025 |

(注)1 セグメント利益又は損失の調整額366百万円は、セグメント間取引の消去であります。

2 セグメント利益又は損失は四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントの変更等に関する事項

会計方針の変更に記載のとおり、第1四半期連結会計期間の期首から収益認識会計基準等を適用し、収益認識に関する会計処理方法を変更したため、事業セグメントの利益又は損失の算定方法を同様に変更しております。

当該変更により、従来の方と比べて、「食品事業」の売上高は30,658百万円減少し、「流通事業」の売上高は771百万円増加し、「その他事業」の売上高は191百万円減少しております。なお、セグメント利益又は損失(△)に与える影響はありません。

3. 補足情報

(1) 連結販売実績

(単位: 百万円)

| セグメント名称 | 区 分 | 前第3四半期 連結累計期間 (自 2021年1月1日 至 2021年9月30日) | | 当第3四半期 連結累計期間 (自 2022年1月1日 至 2022年9月30日) | | 比 較 増 減 | | (参 考) 収益認識会計基準 適用前比較増減 | |
|------------------|--------------|---|---------|---|--------|---------|------------|------------------------------|------------|
| | | 金 額 | 構成比 | 金 額 | 構成比 | 金 額 | 前 年 同期比 | 金 額 | 前 年 同期比 |
| 食 品 事 業 | 食 ぱ ン | 70,660 | 9.3% | 76,102 | 9.6% | 5,441 | 107.7% | 5,810 | 108.2% |
| | 菓 子 ぱ ン | 259,587 | 34.0 | 279,172 | 35.2 | 19,585 | 107.5 | 21,490 | 108.3 |
| | 和 菓 子 | 49,579 | 6.5 | 51,412 | 6.5 | 1,833 | 103.7 | 2,157 | 104.4 |
| | 洋 菓 子 | 102,066 | 13.4 | 102,662 | 13.0 | 596 | 100.6 | 1,344 | 101.3 |
| | 調理パン・米飯類 | 108,413 | 14.2 | 109,696 | 13.8 | 1,282 | 101.2 | 8,389 | 107.7 |
| | 製菓・米菓・その他商品類 | 122,406 | 16.1 | 117,869 | 14.9 | △ 4,537 | 96.3 | 15,668 | 112.8 |
| | 食 品 事 業 計 | 712,714 | 93.5 | 736,916 | 93.0 | 24,201 | 103.4 | 54,860 | 107.7 |
| 流 通 事 業 | 39,883 | 5.2 | 45,591 | 5.8 | 5,707 | 114.3 | 4,936 | 112.4 | |
| そ の 他 事 業 | 9,457 | 1.3 | 9,620 | 1.2 | 162 | 101.7 | 354 | 103.7 | |
| 合 計 | 762,055 | 100.0 | 792,128 | 100.0 | 30,072 | 103.9 | 60,151 | 107.9 | |

(2) 主要子会社実績

(単位: 百万円)

| | 売 上 高 | | | | | | 営 業 利 益 | | | |
|--------------|------------|------------|--------|--------|------------------------------|-------|------------|------------|-------|-------|
| | 前第3 四半期 | 当第3 四半期 | 増減額 | 増減率 | (参 考) 収益認識会計基準 適用前比較増減 | | 前第3 四半期 | 当第3 四半期 | 増減額 | 増減率 |
| | | | | | 増減額 | 増減率 | | | | |
| (株)不二家〈連結〉 | 73,814 | 72,058 | △1,755 | △ 2.4% | 10,715 | 14.5% | 1,957 | 2,516 | 559 | 28.6% |
| (株)サンデリカ | 78,561 | 74,108 | △4,453 | △ 5.7 | 2,342 | 3.0 | 13 | 314 | 300 | — |
| ヤマザキビスケット(株) | 24,542 | 21,442 | △3,099 | △12.6 | △ 110 | △ 0.4 | 474 | △ 56 | △ 531 | — |
| (株)ヴィ・ド・フランス | 17,573 | 19,275 | 1,701 | 9.7 | 1,720 | 9.8 | △2,397 | △1,073 | 1,323 | — |
| (株)東ハト | 21,436 | 18,347 | △3,088 | △14.4 | 1,717 | 8.0 | 1,072 | 739 | △ 332 | △31.0 |

(3)2022年12月期第3四半期の単体業績 (2022年1月1日~2022年9月30日)

①単体経営成績

(%表示は、対前年同四半期増減率)

| | 売上高 | | 営業利益 | | 経常利益 | | 四半期純利益 | |
|----------------|---------|-----|--------|-------|--------|------|--------|-----|
| | 百万円 | % | 百万円 | % | 百万円 | % | 百万円 | % |
| 2022年12月期第3四半期 | 567,554 | — | 11,572 | △ 2.3 | 15,923 | 10.4 | 10,117 | 9.8 |
| 2021年12月期第3四半期 | 551,526 | 2.0 | 11,850 | △ 3.8 | 14,422 | 0.4 | 9,214 | 1.5 |

(注)「収益認識に関する会計基準」(企業会計基準第29号 2020年3月31日)等を第1四半期会計期間の期首から適用しており、当該基準を適用する前の2021年12月期第3四半期累計期間の売上高に対する対前年同四半期増減率は記載しておりません。

なお、2021年12月期第3四半期累計期間と同様の基準で算出した2022年12月期第3四半期累計期間の売上高の増減率は3.4%増であります。

②単体財政状態

| | 総資産 | 純資産 |
|----------------|---------|---------|
| | 百万円 | 百万円 |
| 2022年12月期第3四半期 | 532,583 | 297,234 |
| 2021年12月期 | 556,474 | 300,811 |

(注) 単体業績数値は、四半期財務諸表等規則に基づいて作成しておりますが、法定開示におけるレビュー対象ではありません。

(4)単体販売実績

(単位:百万円)

| 期別 品種別 | 前第3四半期 (自2021年1月1日 至2021年9月30日) | | 当第3四半期 (自2022年1月1日 至2022年9月30日) | | 比較増減 | | (参考) 収益認識会計基準 適用前比較増減 | |
|--------------|---------------------------------------|-------|---------------------------------------|-------|---------|--------|-----------------------------|--------|
| | 金額 | 構成比 | 金額 | 構成比 | 金額 | 前年同期比 | 金額 | 前年同期比 |
| 食パン | 71,327 | 12.9% | 73,878 | 13.0% | 2,550 | 103.6% | 2,992 | 104.2% |
| 菓子パン | 249,311 | 45.2 | 255,526 | 45.0 | 6,214 | 102.5 | 8,514 | 103.4 |
| 和菓子 | 49,616 | 9.0 | 50,896 | 9.0 | 1,280 | 102.6 | 1,683 | 103.4 |
| 洋菓子 | 79,594 | 14.4 | 77,294 | 13.6 | △ 2,300 | 97.1 | △ 1,584 | 98.0 |
| 調理パン・米飯類 | 36,351 | 6.6 | 39,062 | 6.9 | 2,711 | 107.5 | 3,006 | 108.3 |
| 製菓・米菓・その他商品類 | 31,313 | 5.7 | 34,291 | 6.0 | 2,977 | 109.5 | 3,012 | 109.6 |
| 小計 | 517,515 | 93.8 | 530,950 | 93.5 | 13,434 | 102.6 | 17,624 | 103.4 |
| デイリーヤマザキ事業 | 44,901 | 8.2 | 48,095 | 8.5 | 3,193 | 107.1 | 2,422 | 105.4 |
| 内部消去 | △ 10,890 | △ 2.0 | △ 11,491 | △ 2.0 | △ 601 | — | △ 1,460 | — |
| 合計 | 551,526 | 100.0 | 567,554 | 100.0 | 16,027 | 102.9 | 18,586 | 103.4 |

(5)単体営業利益増減の内訳

(単位:百万円)

| | 2021年 第3四半期 | | 2022年 第3四半期 | | 増減額 | 増減率 (%) |
|----------------------|----------------|-------|----------------|-------|---------|------------|
| | 金額 | % | 金額 | % | | |
| 営業利益 | | | | | | |
| 山崎製パン(デイリーヤマザキ事業を除く) | 14,989 | 2.9 | 13,798 | 2.6 | △ 1,190 | △ 7.9 |
| デイリーヤマザキ事業 | △ 3,138 | △ 7.0 | △ 2,225 | △ 4.6 | 912 | — |
| 合計 | 11,850 | 2.1 | 11,572 | 2.0 | △ 277 | △ 2.3 |

<山崎製パン(デイリーヤマザキ事業を除く)増減内訳>

(単位:百万円)

| | 2021年 第3四半期 | | 2022年 第3四半期 | | 増減額 | 増減率 (%) | 営業利益増減要因 |
|------------|----------------|------|----------------|------|---------|------------|---|
| | 金額 | % | 金額 | % | | | |
| 売上総利益 | 162,204 | 31.3 | 159,710 | 30.1 | △ 2,493 | △ 1.5 | 売上高の増加 7,979 原材料費の増加 ▲ 1,062 労務費の減少 291 経費の増加 ▲ 3,665 償却費の増加 ▲ 224 その他 ▲ 1,623 収益認識基準影響 ▲ 4,189 |
| 販売費及び一般管理費 | 147,214 | 28.4 | 145,911 | 27.5 | △ 1,302 | △ 0.9 | 人件費の増加 ▲ 282 経費の増加 ▲ 2,611 償却費の減少 6 収益認識基準影響 4,189 |

(注)「営業利益増減要因」欄で▲は営業利益のマイナス影響を表しています。

「%」欄は山崎製パン(デイリーヤマザキ事業を除く)の売上高に対する比率を記載しています。